

令和2年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和2年7月21日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

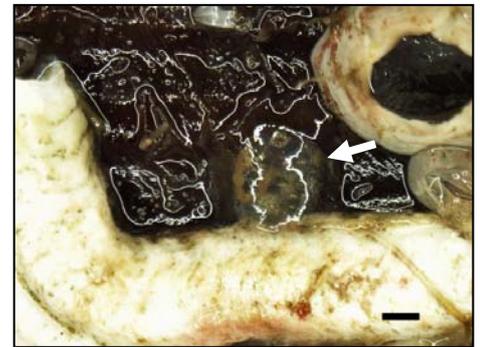
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

7月16日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着数はホタテガイ1枚あたり2.7個体で、例年よりも少ないです（表1、図3）。
- 平均サイズは2.3mmで、肉眼で識別困難なサイズが中心です（図1、図2）。
- 7～8月は噴火湾ではヨーロッパザラボヤの付着数が最も増加する時期です（図3）。今後、付着個体数は増加すると見込まれます。
- 深度10m以深の水温は例年よりも高めで、広い水深帯でヨーロッパザラボヤの繁殖は本格化していると考えられます（図4）。
- 繁殖が本格化しているにも関わらず、付着数が少ないとすれば、今年は付着数自体が少ない可能性もあります。来月以降の調査結果を注目ください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和2年7月16日 八雲地区



バーは1mm。矢印がヨーロッパザラボヤ

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和2年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

1. 耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月16日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(図1)。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり2.7個体でした(表1)。平均サイズは2.3mmで、肉眼では認識困難な5mm未満の個体が大部分でした(図2)。過去5ヶ年の同時期のデータと比較すると少ない付着個体数です(図3)。本調査で7月のホタテガイ1枚あたりの平均付着数が5個体未満となるのはH25年以来です。今後、最も付着が多くなる7~8月にかけてどの程度個体数が増加するか、また、例年どおり8~9月に付着個体数が減少するか、を注視する必要があります。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和2年7月16日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	13.8g	10.8g	29.9g	18.2g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	13.8g	10.8g	29.9g	18.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	0.6個体	2.0個体	5.4個体	2.7個体
令和元年7月(R1.7.25)の個体数	10.2個体	44.0個体	30.4個体	28.2個体
平成30年7月(H30.7.25)の個体数	24.8個体	31.0個体	25.0個体	26.9個体
平成29年7月(H29.7.24)の個体数	7.4個体	14.2個体	16.4個体	12.7個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和2年6~7月)

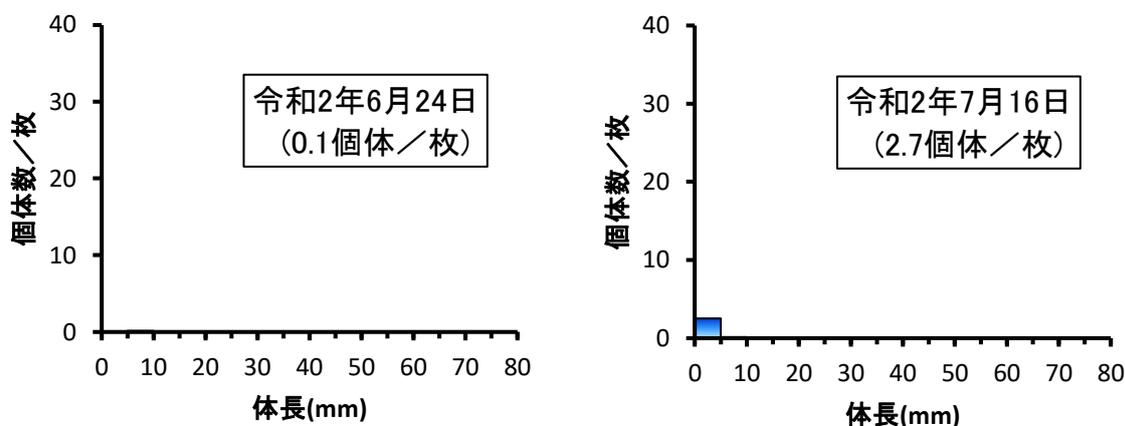
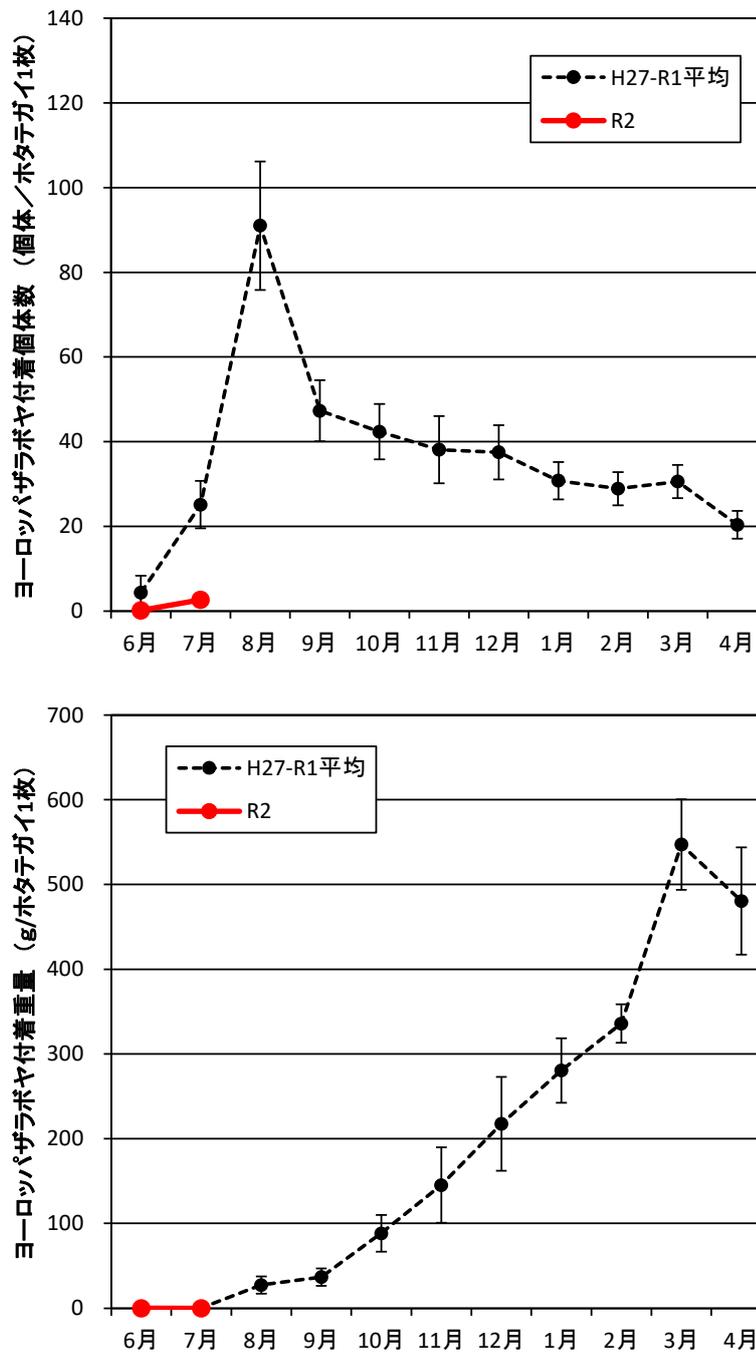


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

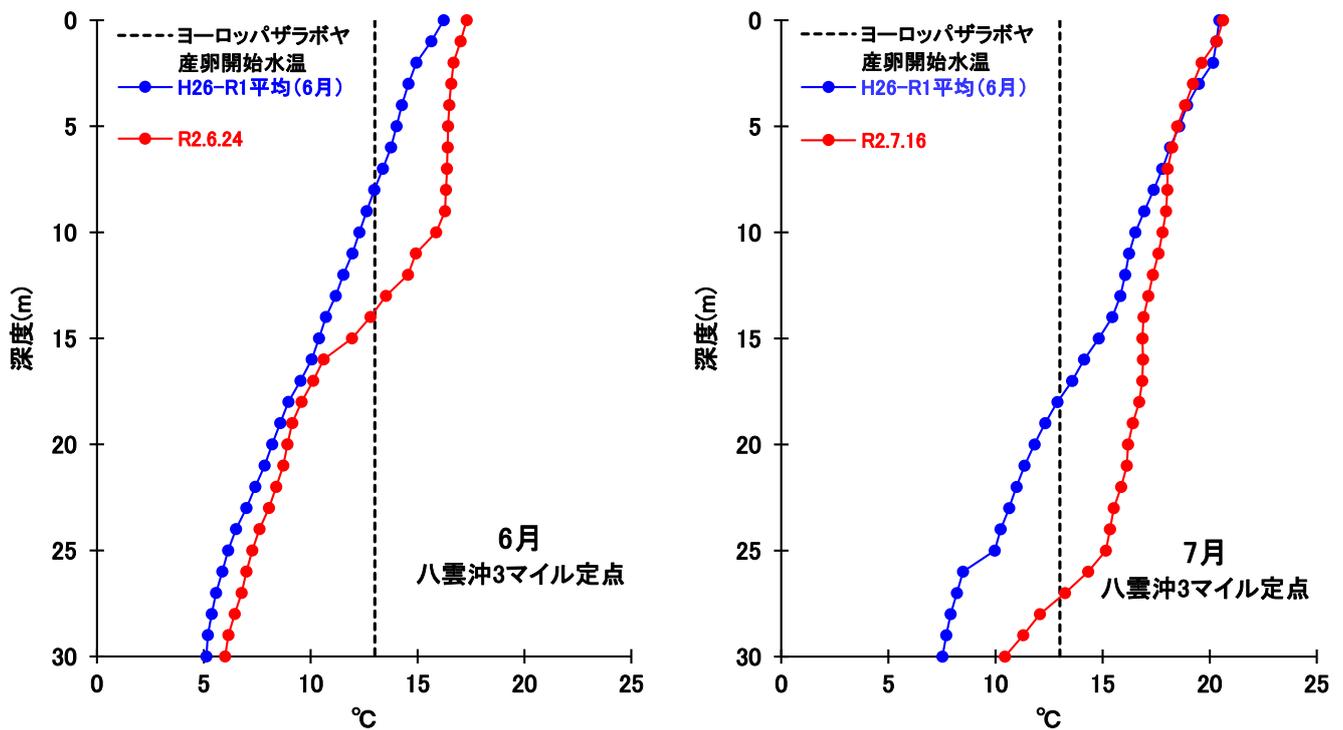


上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H27～R1年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が最も多くなっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。

図 4 調査地点近傍の 6 月および 7 月の水温鉛直分布（近 5 ヶ年と今年）



左：6 月の水温鉛直分布、右：7 月の水温鉛直分布
 R2 年 6 月は全層で近 5 ヶ年よりも水温が高く、深度 15m までヨーロッパザラボヤの産卵水温を超えていました。7 月は深度 10m 以深で近 5 ヶ年よりも水温が高く、深度 25m までヨーロッパザラボヤの産卵水温を超えていました。そのため、既に広い水深帯でヨーロッパザラボヤの繁殖が本格化していると考えられます。繁殖が本格化しているにも関わらず、付着個体数が少ないとすれば、今年は付着数自体が少ない可能性もあります。なお、H28 年 7 月は欠測のため、近 5 ヶ年のデータは H26、27、29、30 年および R1 年の平均値としました。